



西東京市立栄小学校

令和8年1月30日(金)

西東京市栄町2-10-9

TEL 042(423)0276

勸善懲悪

副校長 菊池 佑介

昔から、勸善懲悪を柱にしたドラマやアニメは、観る人に安心感を与え、爽快な気分してくれます。悪い人物がいて、主人公たちを苦しめますが、最後に悪を倒し、気持ちよくエンディングを迎えます。ただし、その悪い人物というのは、本当に悪なのだろうか、と考えてしまうことがあります。

中学校の道徳では、昔話「桃太郎」において、桃太郎の視点ではなく、鬼の視点に立ち、物事を考える題材がありました。鬼の子供が書いた手紙をもとに、鬼は本当に悪者だったのかと考えさせる授業です。確かに鬼は、宝物を奪ったかもしれませんが、彼らにも家族がいて、子供もいるはずです。鬼はみんな成敗されますが、子供が成敗される必要はあったのか、と疑問を持たざるを得ません。

私が好きなロボットアニメがあります。子供の頃に観た時は、何となく敵か味方かを概念的に捉えて観ていました。でも、よく考えてみると、敵・味方はないという認識になります。舞台は、地球と宇宙。地球が人口過多で住めなくなり、人間が宇宙に移り住みます。その後、宇宙で人間が生まれ育つことになります。すると、地球で生まれ育った人類が、宇宙で生まれ育った人間は後発的なものだからと下に扱うようになります。その後、宇宙に住む人々が平等な権利を訴えて、やがて戦争になるという物語です。主人公は、宇宙に住む人々から戦争を起こしたので、宇宙側の人間が悪いと捉えますが、宇宙側の人の思いや考えを知ることによって、本当の悪は何だろうと考え始め、戦争を止めるために戦います。

ただ、物語を観ていて思うのが、「誰かが倒されて、本当の平和は訪れるのだろうか。」という疑問が生じます。案の定、新たな組織が立ち上がり、戦いが永遠に続いていきます。結局、悪であるというのは、反対側の位置に立っているものが、もう一方をそう決めつけているだけで、どちらの立場にも思いや願いがあることを観る側に考えさせ、「どうすることがよかったのか。」を問い掛ける形で終わりになっています。

昔のように悪が全て悪いという捉えは、多様性が求められ、目まぐるしく環境が変化していく現代では難しくなっているのではと考えます。何が正しくて、何が間違っているのかについて、人間が個々に考え、判断し、行動していく力が、本当に必要な世の中なんだと思います。ただ、はっきり言えることは、暴力や武力で解決できるものはない、やられたらやり返せの考えは、絶対に問題を解決できないということです。平和的な解決に向けて対話する力が大切であることを、これからも子供たちに伝えていきたいと思っています。

生活指導

2月の生活目標:「寒さに負けず 体をきたえよう」

2月は、まだまだ寒いですが、休み時間は外で元気いっぱい遊ばせたいと思います。校庭の遊具を使ったり、友達と鬼ごっこやボール遊びなどをしたりして、外でたくさん体を動かして丈夫な体をつくれるように指導していきます。